

防 除 情 報

長崎県病害虫防除所長

令和7年度病害虫発生予察防除情報第3号

トマト黄化葉巻病の防除対策について

促成トマトにおいて、黄化葉巻病の発生が多い状況です。防除対策として媒介虫であるタバココナジラミを『入れない、増やさない、出さない』ことが大切です。トマト圃場での黄化葉巻病の伝染環を断つため、栽培終了時のハウス密閉による蒸しこみなどを実施し、タバココナジラミのハウス外への飛散を防ぎ、次作までの休作期間を十分にあげるなどの対策を地域ぐるみで徹底してください。

記

1. 発生状況

- (1) 5月前期の巡回調査（8筆）の結果、発病株率は1.3%（平年 1.0%）、発生圃場率は62.5%（同 26.8%）であった（図1、2）。
- (2) 媒介虫であるタバココナジラミは、5月前期の巡回調査（8筆）の結果、寄生葉率は2.1%（平年 9.7%）、発生圃場率は25.0%（62.3%）であった。

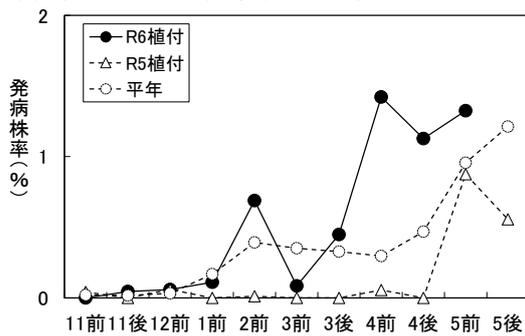


図1 トマト黄化葉巻病 発病株率の推移

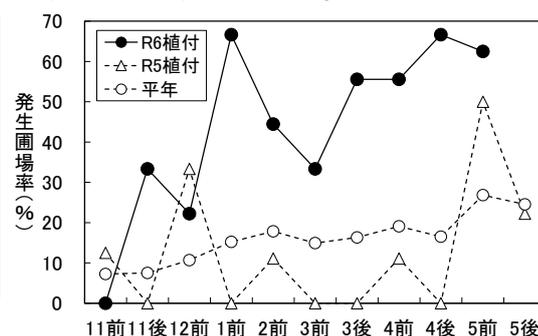


図2 トマト黄化葉巻病 発生圃場率の推移

- (3) 気象予報（福岡管区气象台、令和7年5月15日発表）によると、向こう1か月の気温は高い見込みであり、タバココナジラミの発生に好適である。

2. 防除対策

- (1) 圃場内外の寄主植物の除去
 - 本虫の生息場所となる施設内外の雑草等を除去し、周辺環境における密度低減を図る。
- (2) 栽培終了後の蒸し込みの実施
 - ア 蒸し込む前に、トマトを抜根または根元から切断して枯死させる。
 - イ できるだけ隙間の無いよう、施設を密閉する。
 - ウ 日中の室温50℃以上を1週間以上維持する。
- (3) コナジラミ類蔓延防止（古株枯死に使用できる薬剤を使用する場合）
 - ア 薬剤を使用すると古株の枯死を促進させ作業時間の短縮を図ることができる。
 - イ 栽培終了後、株は抜かずに施設を密閉のうえ、前作終了後からは種又は定植の15日前までに、キルパー原液60リットル/10aを水で50倍希釈を目安に希釈し、かん水チューブ等を利用してマルチ内の土壌表面に散布または灌水する。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス

: <https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) TEL : 0957-26-0027

